

令和7年度 第1回学校運営協議会記録

令和7年5月30日(金)

9:30~11:00

【出席者】

・委員(14名中11名出席)

吉利会長 植田副会長 一守委員 宇野委員 桑本委員 高田委員 中村委員
星川委員 本田委員 渡邊委員 木村校長

・教職員(計11名出席)

1 開会

(1) あいさつ【校長】

令和7年度は小学部37名中学部19名高等部が24名計80名の児童生徒でスタートした。医療的なケアを必要とする児童生徒数は27名で現在は15名の看護師で対応をしている。人工呼吸器の生徒も入学をして、保護者、看護師、保健室等と本人の状態についてしっかりと連携を密にしながら対応している。子ども主体の学び、活動をより豊かなものにしていきたい。そのために教職員の授業力、専門性をより一層高めるとともに保護者、関係機関、地域とのつながりをより強くしていきながら、安全安心な教育環境を整え、笑顔溢れる学校にしていきたい。

学校と地域が、力を合わせて学校の運営に取り組むことができる仕組みをもつコミュニティ・スクールになって4年目となった。いろいろな意見、助言、また働きかけがあって、児童生徒の活動の場、また、人材の紹介があって一層活気のある学校になっている。学校力が向上するよう、意見をいただきたい。(抜粋)

(2) 令和7年度学校運営協議会委員 任命

(3) 自己紹介

2 本会の規約等確認【多賀】

半数以上の出席なので、会として成立することを報告する。

3 会長・副会長の選出

会長：吉利様 副会長：植田様

4 議事

(1) 令和7年度岡山県立岡山支援学校の経営方針について

学校経営計画の説明【校長】

・学校経営計画書の本校のミッションを果たすべく内外の環境分析を行い、具体的な目標と計画を提示。肢体不自由教育を専門に行っている県下唯一の特別支援学校であり、肢体不自由教育の専門性ととも発達障害等への幅広い対応も必要となっている。また、特別支援教育のセンター的な役割を果たしていかなければならない。本校は医療との連携が図りやすく、委員の皆様から色々な建設的な意見をいただき、地域とつながりながら学校を運営できている状況である。また、寄宿舎教育も大切にしており、委員の中村前校長も旭川荘療育医療センターの顧問ということで連携の取りやすい状況である。

・学校経営目標、計画の中の「一人一人の個性や特性を大切に、個々の状況に応じた教育活動の推進」は特別支援教育の要となる。自立活動を基盤にした学習活動の充実またICT機器を活用した学びの充実を進めていきたい。

・「自立と社会参加を目指した教育の推進」について居住地校交流や学校間交流などの交流及び共同学習を推進している。昨年度のこの学校運営協議会で生涯学習について意見をいただき、スポーツまた芸術に関する取り組みを実践してきている。今年度は県の特別支援教育課より生涯学習に関して研究指定を受けている。特に、文化芸術に関する分野の活動に力を入れて取り組んでいく予定である。

・「健康で安全な学校生活の確保」については、安心して学びに向かえるように、安全な医療的ケアの実施、またそれぞれに応じた健康面での支援を行うことで、子どもたちが安心安全に学校生活を送ることができるように努めていく。

自立活動推進チームの取組について【多賀】

・（自立活動の説明。）自立活動についてもっと知りたい方は本校のホームページに自立活動通信が掲載されているので、ぜひご覧ください。

・令和6年度の成果は、巡回指導や抽出指導で担任の先生方と協働することで、個々の児童生徒にとってより良い指導・支援を考え伝えることができたことと教材の管理・設置、作成を行うことで、一人一人のニーズに合わせた学習環境を整えることができたこと。課題は、自立活動における指導力の向上。

・令和7年度の自立活動充実のための主な取組は、自立活動の時間における巡回指導及び抽出指導、自立活動目標検討会のファシリテート、自立活動通信の発行、研修の計画・実施、アセスメントの実施等であるが、そのうち、自立活動の時間の巡回指導及び抽出指導、研修の計画・実施を重点取組として取り組んでいく。その際、昨年度の課題として挙げていた自立活動における指導力の向上について意識して取り組んでいきたい。

・重点取組について、抽出指導は担任から要請があった児童生徒の自立活動の指導を自立活動推進チームの教員が一定期間継続して行う指導であるが、推進チームの教員がいなくても担任が指導できるよう、また担任の専門性も向上できるようにしていくために、授業の取組のねらいや様子を伝達するなどしながら指導にあたる。研修では、今まで行っていた研修の内容をブラッシュアップし、先生方のニーズに合う、より学びのある研修としていきたいと考えている。新しく、自立活動希望者研修を計画しているが、運動発達や感覚統合等の基礎的な理論に関する知識があれば、より適切な指導支援に結びつくと考え、計画した。研修の実施にあたり内容の検討や事例の研究をすることで、自立活動推進チームの専門性も向上すると考えている。

ICT活用推進チームの取組について【米重】

・ICT活用推進チームは今年度2名で構成されており、ICT機器を活用した支援の指導や提案、授業支援やICT機器の管理、ICTに関わる教職員研修などを行っている。

・昨年度の取組として

① 外部の先生をお招きして校内研修を行ったり、ミニ研修として、児童生徒が実際に使うアプリを取り上げて、基本的な操作方法を学ぶ研修を実施したりした。「肢体不自由児者のためのICT活用研究会」も立ち上げ、旭川荘の方や県内特別支援学校、事業所の方に参集いただき、ICT活用推進チームが行った実践事例の紹介と、スイッチなどの作成研修を行った。研修は年間を通して12回実施し、授業でICT機器を活用できる先生方がかなり増えてきている。

② 外部との連携にも力を入れ、文化祭のファッションショーでは、就実大学ご協力のもと、生徒がスイッチを活用して音楽や照明を操作して、ファッションショーを盛り上げた。また、県内

特別支援学校の児童生徒や卒業後の進路となる事業所の方々ともオンラインで視線入力対戦の場を設定し、進路先の様子を知ったり、学校を超えた繋がりとなったりする貴重な機会になった。

・昨年度の課題として

- ① 昨年度は主に、自立活動の時間に個々の実態に応じて支援を行っていたが、今年度はそれを教科の指導に「生かしたり」、周りの人と関わるきっかけとなるよう「活用したりしていく」ということが課題になっている。
- ② ICT活用推進チームや学校内で活用が留まるのではなく、担任や保護者に共有する機会を設けることで、卒業後や、その先も継続して活用できるようにしていきたい。
- ③ 視線入力やスイッチなどの操作方法を一部の教員が知っているのではなく、みんなが使えるICTにできるように引き継ぎをしていくことが課題となっている。

・今年度の取組は「みんなが活用できるICT」を合言葉とする。

- ① 教職員のニーズに合った研修を行うため、アンケートを取って実施したり、ICT通信の発行を行い、実践事例や使用したICT機器を共有したりする。HPやSNSにもアップし、保護者の方や地域の方々に知っていただく機会にするとともに閲覧数が増えるような工夫も考えていきたい。
- ② 外部との連携強化を行っていきたい。

・「KAGURA」：画面に映ったボタンに手をかざすと音が鳴るソフトで、with就実大学ということで、就実大学の先生方にお力添えいただきながら、早速音楽の授業などで活用されている。

・「オンラインeポッチャ」：with早島支援学校で早島支援学校にあるポッチャ発射装置を本校から操作して対戦するというもの。今年度体育の授業や交流で活用できたらと考えている。

・昨年度はwith事業所として、多機能型事業所いち・にのさんとオンライン視線入力対戦を行ったが、今年度は新たな事業所の方とつながり、交流の輪を広げていきたいと考えている。

・まとめとして

ICT活用推進チームだけでなく、自立活動推進チームや様々な先生方と協力し、児童生徒の実態に合った「できる！」を増やすICT活用を考えていく。また、with〇〇だけでなく、「こんなことできるのでは？」等のアイデアも募集中。

寄宿舎教育の取組について【中西ま】

・今年度の寄宿舎は、高等部生徒3名に加え中学部の生徒が3名入舎し合計6名となった。異年齢の集団の中で、お互いを思いやりながら生活している様子が見られている。

・昨年度から、【舎生の「知っている！」を増やそう】をテーマに、日常生活の支援・指導を行っている。寄宿舎生活の中で様々なことを経験し「知っている！」を増やす。その積み重ねが、「ちょっとやってみようかな」と一歩踏み出す原動力となり、「やってみる！」ことで豊かな生活につながる様々な力を育むことができるようにと考えている。

・自治活動として舎生会があり、高等部の3名が舎生会役員として活動している。今年度は、舎生会から「スマートフォンの使用時間延長」などルールの見直しが要望されており、今後、要望を実現するためにはどうしたら良いかなど、職員とやり取りをする中で一緒に考えていく。

・学期に1回大きな行事があり、舎生会でも「季節の楽しみ」として月ごとに季節を感じられるお楽しみを計画する。その他、生活・保健・安全に関する学習会、調理体験、野菜の栽培、「遊びの達人」を予定している。「遊びの達人」は、学校の先生やボランティアの方に趣味や特技を教えて

もらい、体験してみる活動で、「どんなことをするのだろう」と舎生も毎回楽しみにしており、初めての活動にも積極的に参加する姿が見られている。

・昨年度末、舎生から「ポッチャ大会をしたい！」と発案があり、今年度開催することになった。この大会を開催するまでの過程で、発案した舎生が自分で計画を立て、みんなに伝え、賛同してもらい、行動するというのを大切にしながら取り組んでいる。6月、9月、2月の3回計画しており、2月は外部の方との交流を含めた団体戦にしたいと計画を進めている。ぜひ、チームを作ってご参加ください！

・ボランティアで舎生のニーズに合った活動をしてくださる方がおられましたら、ぜひご紹介ください。

・体験入舎は学校内はもちろん、学校外の児童生徒も寄宿舎の生活を体験することができる。余暇時間のみ、夕食まで、入浴まで、寄宿舎生と同じ日課での宿泊生活など、児童生徒の実態に合わせて進めていくことができる。今年度入舎した生徒たちもそれぞれのペースで寄宿舎の生活を体験し、入舎の運びとなった。興味のある方がおられましたら、ぜひご紹介ください。

生涯教育（文化芸術）の取組について【柿元】

・生涯学習の文化芸術分野について、県の指定を受け2年計画で研究に取り組むことになった。生涯学習とは、「自分の意志で生涯にわたって学び続けること」。本校の児童生徒にとっての生涯学習とは、日常の学習場面そのもの、主体的に学んでいる姿や場面、文化祭、余暇活動、ICTの活用…等、これまで授業の中で取り組んできたことや、今まさに取り組んでいる活動や学習そのものが、生涯学習につながるきっかけである。児童生徒が興味をもっている活動、楽しいと感じる活動ほど、生涯学習として将来の学びにつながっていく。「自分もできた！」という自信が生涯学習へのきっかけになるのではと思われる。

・重度重複障害の児童生徒が所属している、Ⅲ類型における生涯学習の在り方については、チャレンジできるためのきっかけ作り、扱う支援ツールや教材の工夫、人的なサポートなど、環境設定について大切に考えながら取り組んでいきたい。

・ボランティアの方々、地域の方々、施設や事業所と関わったり、オンラインを活用して遠隔で離れた場所とやりとりしたりすることを通して、いろいろな人や地域や社会とつながって、児童生徒の未来や、将来の豊かな生活につながる生涯学習の取組を進めていきたい。

・昨年度の取り組みとして、

- ① ICTを活用した取組で、Ⅲ類型の授業で他校とオンラインでつないで、自己紹介をしたり、視線入力でゲームをしたりした。訪問教育の生徒も、誕生寺支援の訪問教育の生徒とオンラインでつながって、視線入力で操作しながら、風船割ゲームなどに取り組んだ。
- ② 手元のスイッチを押すと、歌声が聞こえたり、効果音が聞こえたり、また、照明の色が変化したりする仕掛けを、生徒たちが自分で操作し、音楽を奏で、見て楽しむという取組をした。どの生徒にとっても、取り組みやすいことがとても魅力で、何度も繰り返し挑戦する生徒もいた。
- ③ 画面上のアイコンに触れることで、伴奏に合わせて効果音が鳴るという仕掛けを体験した。
- ④ 文化祭のファッションショーでは、音響や照明、衣装制作など、岡山南高校服飾デザイン科の生徒や就実大学の先生など、学校外の方々とつながって、やりとりしながら作り上げた企画だった。

- ⑤ 中学部で屋外コンサートを行った。公園に来られていた方との出会いから、一緒に楽器演奏（二胡と三線）をすることになり、グリーンシャワーの気持ちのよい空間のなかで、コンサートを開催することができた。
- ⑥ 毎年お世話になっている黄ニラ大使の植田さんとの活動では、一緒に栽培した黄ニラを給食と一緒に食べる機会を設けた。昨年は、中学部でパクチーの栽培にも挑戦した。
- ⑦ Ⅲ類型の生徒の書き初めによる作品で、全国特別支援学校文化祭書道部門において、「肢体不自由教育校長会長賞」を受賞した。本人のやりがいや喜びそのものだけでなく、彼女の周りにも人にとっても達成感につながっていくものである。

・これまでの取組を継続したり、広げていったりすることはもちろんだが、様々な人とのつながりの中で、新しい可能性を探ったり、新たにチャレンジしたりしながら、生涯学習に取り組んでいきたいと思う。保護者への働き掛けや、SNS等での校内での活動の様子発信、また展示会や作品展についての案内や積極的な参加についても、校内で進めていきたいと思う。新しいアイデアがあれば、ぜひ教えて欲しい。

（２）グループ協議

協議題：「岡山支援学校の学校経営計画について」

学校経営計画の内容やそれに基づいた取組について、もっとこんなことをしたらいいのではないかと、委員としてこんな応援ができるのではないかと、地域のこんな資源が活用できるのではないかと…等、ご意見や提案、情報提供をいただきたい。

<1グループ>

- ・他校と比べて先進的であり、ICTの活用が全ての児童生徒に広がったと感じた。
- ・野菜を作っているのだから、地域野菜をもっと増やし、メニューに沿って野菜を作り、それをレシピにして企業さんとかに提示をすれば、本当のメニューになるのではという意見が出た。行政が動いてくれたらバックアップしてもらえらるかもしれない。
- ・音楽もいろいろされているので、バンドをしたり、音楽を作ったりして表現の機会を増やしていけるのではないかと。
- ・ICTがすごく進んでいるので、SNSでショートの記事とかを発信するのでも一つで子どもたちも興味を持つのではないかと。
- ・寄宿舎がボッチャ大会を企画している。いろいろな方の参加を募集している。eスポーツは身体が不自由でもソフトがあればできて楽しい。
- ・生涯学習を学校の中で楽しむのは分かる。卒業後につなげたり、ゴールをどのように設定したりしているか線引きがあるとよい。

<2グループ>

- ・ICTを活用することによって学校において時間や場所を超えて実現できることが増えた。世の中がまだそこまで追いついていないようで、学校の取組をもっと外の地域社会に対して知っていただくような取り組みをしてはどうかという意見が出た。
- ・企業福祉、パラスポーツ等で関わっている。県内企業の障害者雇用の連携、グループなどを作っている。またICTを活用されている県外の事業所さんとも連携している。生徒との交流、スポーツ体験、お仕事体験等について企業や福祉等に依頼をしたいという時にお声掛けいただければ協力できるのではと思う。
- ・特別支援学級の先生方との交流をもっと進められてはどうかという意見も出た。地域の方に知っていただく機会や発表の場を文化祭だけではなくて多く設けてはどうかと思う。

・ 自立支援協議会等で障害をもたれた方の生涯学習や余暇活動についてのフォーラムを実施してはどうかというような意見も出た。

<3グループ>

・ 学校経営計画は、取組を推進するための校内の組織作りがしっかりとしていて、子どもたちの「やってみたい。」「できたらうれしいな。」という気持ちを大切にされている。

・ ボッチャは旭川荘、竜の口寮も取り組んでいるので連携の糸口になりたい。

・ 公民館のクラブの多くが地域貢献に協力的であるが、岡山支援学校の取組や求めがなかなか知られていない。

・ 「文化芸術」に力を入れることは大事だが、スポーツ系の取組を進めたい児童生徒もいると思うので、そちらも大切にしたい。

・ 自立活動の取り組みとして卒業後も対応できる力を付けていって欲しい。

・ 特別支援学校のセンター的機能について具体的にどのようなことがあるか。

→説明【多賀】

(特別支援教育エキスパート派遣事業の説明。)今年度は視線入力での研修や支援の依頼が届いている。発達障害の対する支援依頼も受け付けている。

(3) 学校経営計画の承認決議

承認される→様々なお意見ありがとうございます。今後の学校運営に生かしていきます。

5 連絡【多賀】

(1) 岡山支援学校におけるいじめ問題に関する取組について

(2) SNSでの情報発信

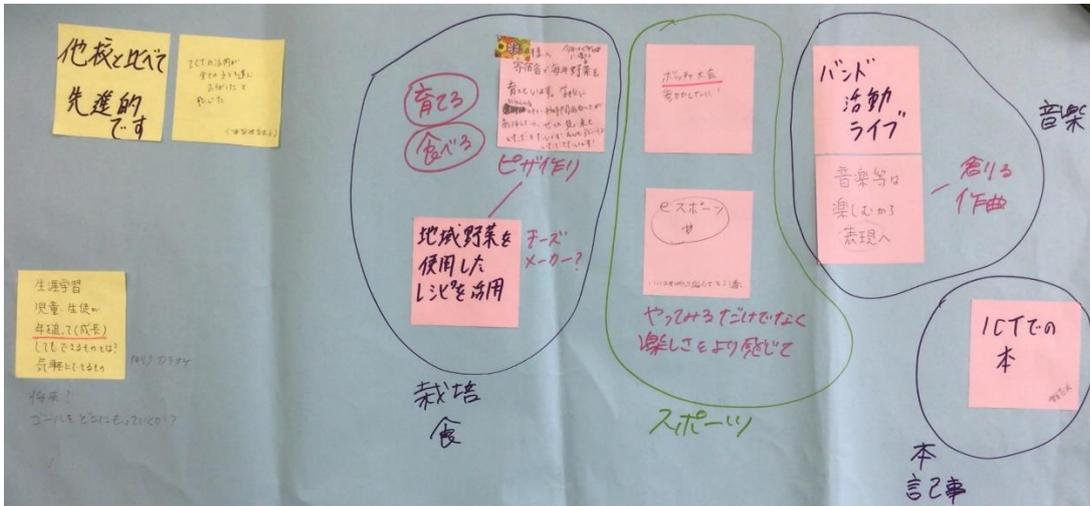
(3) 文化祭の日程 11月8日(土) 9:10~11:45

(4) 今後の予定

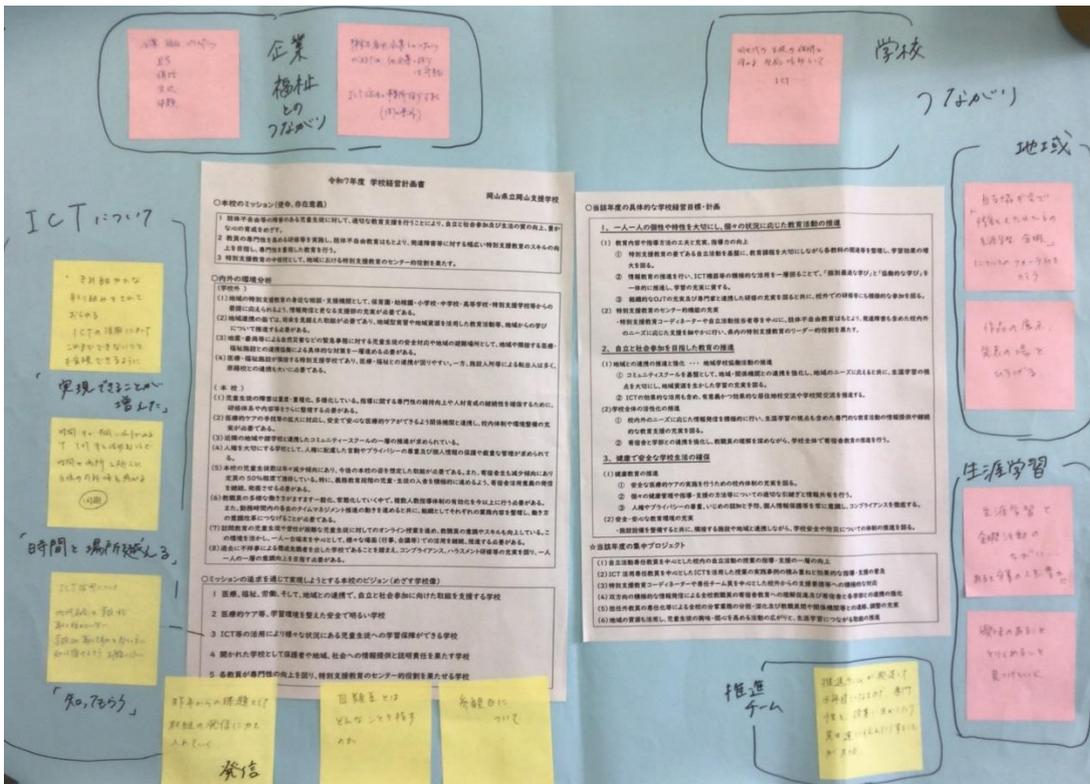
6 閉会

あいさつ【会長】

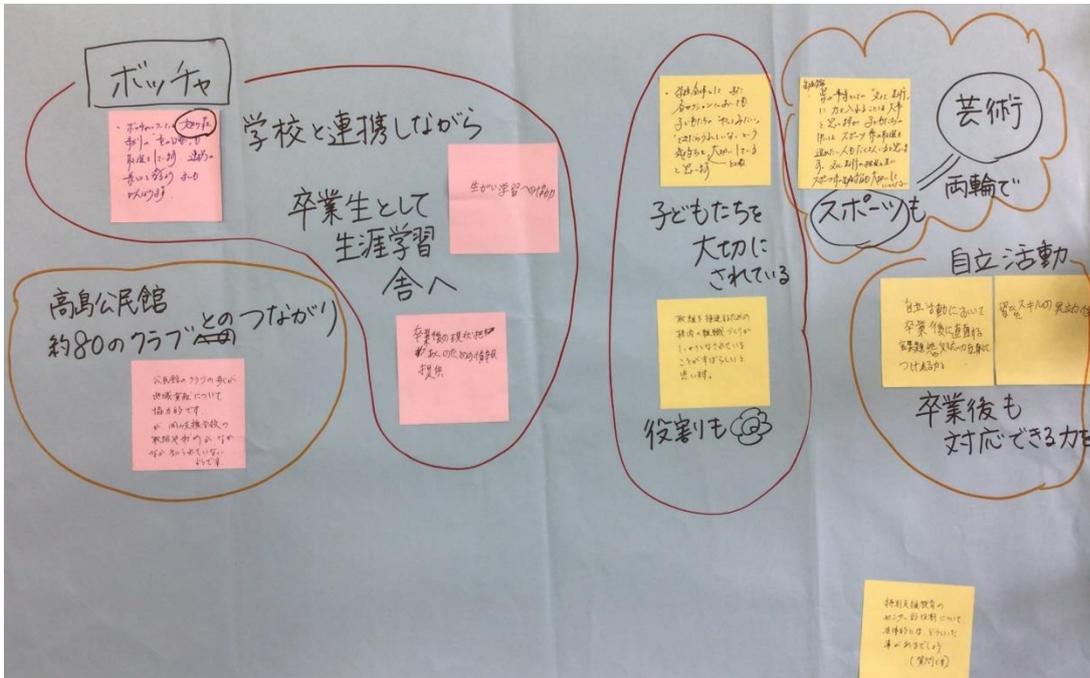
学校が明るい。地域の皆様、先生方のおかげです。学校の基盤を丁寧に積み上げられている。行事等を通して、今後も一緒に学校を元気にしていきたい。



1 グループ



2 グループ



3 グループ